

防衛研修所

資料内訳

◎ 工藤司令官任務報告

田島一夫海軍大尉報告 (昭和19年10月
12日. 関ヶ原ニキニア作戦概況. 其
の他. 並に所見)

◎ 伊藤寛海軍大尉 (ヨキ 4320) (東部ニキニ
ニア方面作戦に参加中の戦訓並に所見)

第85警備隊司令 綾本海軍大佐. (第
85警備隊作戦行動概要手記)

◎ 工藤中将メモ

第7根拠地隊司令官 森少将の司令官. 申
継 (昭和18年10月31日附)

◎ 印は今回複製せよの.

「ニキニア作戦
報告」の綴りに

0495

第七根拠地隊任務報告

(18. 11. 2
19. 3. 25)

軍 極 秘

自昭和十八年十一月二日
至昭和十九年三月二十五日

第七根據地隊任務報告

第七根據地隊司令官

海軍少將 工藤久八

海 軍

任 務 報 告

本職着任（一、二）當時ノ狀況

（一）「ラエ」「サラモア」ヨリノ轉進殆ソド終了シ其狀況ハ

「ラエ」「サラモア」發進時 二一五〇名 二一%

戰死及行衛不明者 四五〇名 二一%

後 送 者 一四五〇名 六七%

現 員 二五〇名 一二%

ノ歌況ニシテ其後モ、マラリヤ、脚氣、榮養失調肺浸潤等續出シ到底「フィンシュ」方面ヘノ進撃ハ不可能ノ狀況トナレリ

（二）當時「フィンシュハーヘン」方面ノ狀況

フィンシュ警備部隊約四五〇名ハ九月三日命ニヨリ陸戰ニ關シテハ第一船舶團長山田少將ノ指揮下ニ次イテ十月上旬第二十師團到着後ハ其指揮下ニ入り九月廿二日敵「フィンシュ」揚陸時ヨリ戰鬪開始

海軍

十月一日陸軍部隊「サ」高地轉進迄同地ヲ固守シ所謂第一線ヲ引受
 ゲ十月二十六日二十師團司令部ト連絡シ其結果總豫備隊トナリ本部
 チ「サ」高地ニ移シ一部戰鬥ニ堪ユル者ヲ第一線ニ配シ戰鬥ヲ繼續
 セリ

十月二十八日師團命令ニヨリ「カノミ」地區ノ警備ヲ擔當中十一月
 二十二日七根司令官直率ニ復歸シ中旬「シホ」ニ到着セリ

九一二二敵上陸時 四七〇名

後發合同員數 二〇〇名

戰死及行衛不明 一二〇名

十一月下旬現在員 三二〇名（内七〇シホ待機中）

敵クンピ上陸迄ニ於ケル司令部所在地「シホ」ニ於ケル狀況

「フィンシュ」交戰中ノ八五警ヲ除キ現員約三〇〇名ニシテ轉進後
 兵力ノ補充、兵器ノ補給等僅カニ潜水艦便ニヨル以外ニ方法ナク十

二月中、潜水艦揚塔ニヨリ兵員約二二二名補充セルモ、「シホ」ニ
 於ケル營生活ト食糧（陸軍補給）等極メテ不充分ノ爲、病者續出
 約四〇%ハ病者ニシテ、後送患者同月中ニ二〇〇名ニ達シ到底兵員
 ノ充實ハ期待出來ザル狀況トナリ又、「シホ」附近敵魚雷艇飛行機等ノ
 横行ニヨリ兵器ノ補充モ不成功ニ終ル事多ク、糧食モ僅カニ四、五
 日分ヲ保有シ得ル心細キ狀況ニアリシモ、遂次兵器（主トシテ見張
 及同通信）到着ニ伴ヒ、東方ハ「シヤルム」西方ハ「フンガイヤ」
 へ當時擔當區、マダン以東）附近迄六ヶ所ノ見張所ヲ配スル事トシ
 遂次進發セシメツツアリタリ
 「シホ」在中毎日午前六時半頃ヨリ午後四時半頃ニ至ル期間ハ敵機
 ノ爆銃撃連續シ毎日數十機ヲ下ラズ到底日中ハジャングルノ露營地
 ヲ出デ得ザル狀況ナリシモ露營地選定宜シキヲ得タル爲陸軍部隊ニ
 ハ相當ノ損害アリシモ海軍部隊ハ僅カニ八名ノ死傷者ニ止マルヲ得

タリ加フルニ、沿岸ハ晝夜共魚雷艇ノ横行、潜水艦驅逐艦等ノ砲撃
 撃數次ニ亘リ十一月下旬ヨリハ「ガリ」方面以東ハ大發夜行モ殆シ
 ド不成功ニ終ルニ至リ前線ニアル陸軍部隊ヘノ彈藥糧食補給ハ不可
 能ノ状態トナリ止ムナク第廿師團モ遂次兵力ヲ西方ニ移動スルノ止
 ムナキ状況トナリ遂ニ十二月下旬ニ到リ「ダリマン」河ノ線迄後退
 止ムナキ由通報ニ接シ敵モ遂次大發（水上）機動等ニヨリ追及シ來
 リ十二月下旬ニハ「シホ」ヨリ敵戰車砲ノ砲聲ヲ聞クニ到リ七根司
 令部モ其儘現地ニ止マルヲ得ザルニ到ルヘキヲ豫想シ、戰鬪司令所
 チ「キヤリ」北方山地ニ準備ヲ進メツツアリキ
 此時迄當根據地隊トシテハ、艦隊ヨリ與ヘラレタル任務ニ基キ陸軍
 ト協力シテ（當時五一師一〇二聯隊堀大佐警備擔當）有時ノ豫備隊
 トナル事ニ協定シ
 常時ハ潜水艦揚陸作業、前記配備ニヨル海上見張警戒海陸輸送業務
 等ニ協力シツツアリタリ

三、敵、グンビ地區上陸前後ノ情況

當時東部ニユーギニア地區方面ニ於テハ彼我兩軍カラサ（フィンシユ西方約四〇哩）附近ニ對持中。

一月二日早朝敵輸送船團（巡邏二十隻、輸送三十隻）グンビ岬附近ニ揚陸我後方遮斷ニ出デシヲ以テ第十八軍ハマダン方面ヨリ約二大半ノ兵力ヲ以テ急速此敵ヲ攻撃東方ニアル陸海軍部隊ハ此敵ヲ擊碎突破マダン方面ニ集結各部隊作戰行動ヲ開始セリ

（一）作戰經過ノ概要

當隊ハ前記狀況ニ鑑ミ速カニ現配備（ガリ以東ノ八二警八五警司令部隊）ヲ撤シマダン方面ニ強行突破スル以外適策ナシト判断シ麾下部隊ニ夫々機動準備ヲナサシム

二日夕刻^{NBG}信電令ニヨリシホ附近ニハ潜水艦補給基地員平岡少尉以下四〇名ヲ殘シ其他ノ海軍主力ハ一月三日夕刻シホ發差當リガリ附近ニ進出同地ノ防備ヲ固ムルト共ニ爾後作戰ヲ準備スルコトニ決意

所要ノ手配ヲ完了セシ處第十八軍司令官一月三日早朝シホニ到着直ニ戰鬥司令所ヲ開設セルヲ以テ陸軍部隊ト協議ノ結果司令部以外ノ海軍部隊ハ陸軍主力機動援護ノ爲成ルベク速ニガリ附近ニ進出同地ノ防備ヲ固ムルト共ニ同地ニ於ケル潜水艦補給ニ協力スルコトニ決シシホ警備部隊ノ主力ハ一月四日夕刻發ガリニ向ケ進撃ス（尙シホ殘留潜水艦揚陸基地員四〇名ハ一月八日伊¹⁷⁹潛揚搭後シホ撤退）一月四日第十八軍ハシホ持久ノ任ヲ解カレタルヲ以テ左ノ作戰方針ヲ執ルニ決セリ

有力ナル一部隊（中井少將指揮ノ二大牛）ヲ以テマダン方面ヨリ東方ニ進撃グンビ岬附近ノ敵ヲ攻撃スルト共ニガリ以東ノ陸軍部隊（五一師、二〇師）ハ第五一師團長指揮ノ下ニ（中野集團ト稱ス）マダン方面向ケ撃碎突破スル事ニ決ス

之カ爲先ガリ附近ニ潜水艦輸送ニ依リ糧秣ヲ集積シ作戰準備ヲ整ヘ主力ハ逐次東方ヨリ配備ヲ撤シマダン方面ニ強行進撃ス尙軍司令官

ハ潜水艦便ニヨリマダンニ先行スル事ニ決ス

當隊モ右ニ協力司令部ハ潜水艦便ニヨリマダンニ先行其他ハ八二警司令部鷓飼大佐ノ指揮下ニマダン方面ニ強行突破スルニ決シ一月八日

第十八軍司令官及七根司令部ヲマダンニ移轉ス

尙八五通及七根司令部員ノ一部（潜水艦輸送者以外ノ者）ハ八五通

田島大尉指揮下ニ一月八日シホ發陸行マダンニ進撃ス

七根司令部マダン着後直ニ八二警司令西林少佐（鷓飼大佐後任）ヲ

指揮官トシ在マダン七根兵力（司令部員ヲ除ク）即八二警司令以下

六三名（八二警三名八五警五特ヨリ編入者六〇）ヲ以テマダン警

備部隊ヲ編成司令部施設、魚雷艇基地及大發基地ノ急速設營並ニ轉

進部隊收容準備ニ着手概ネ一月末日ニ完了セリ

一方海軍轉進部隊ハ一月十八日以降十八軍ト協定ニヨリ第五一師

團長ノ指揮下ニ入レ一月中旬ガリ附近ニ集結一月廿四日同地ヲ撤退

マダンニ向ケ轉進ヲ開始セリ

其間八二艦ハガリニ於テ陸軍ト協力執拗ナル敵飛行機及魚雷艇防害
 冒シ呂一〇四伊一七一潛ノ揚陸ニ成功シ糧食其他約五〇屯ヲ揚陸轉
 進部隊ニ補給スルヲ得タリ尙同輸送ニ從事セル伊一八一潛ハ十八日
 以降消息不明トナリ揚陸不成功ニ終レリ
 以上諸準備ヲ整ヘ東西兩兵力ニヨリ轉進路ヲ確保シツツマダンニ向
 ケ進撃シ海軍部隊ノ大部ハ二月十四日マレ一着大發便ニヨリ翌十五
 日マダンニ到着收容スルヲ待タリ爾來數次ニ亘リ後着者ヲ收容シ結
 局二月末迄ニ收容シ得タル人員ハ
 シホ進發時人員 四二四 マダン收容人員 一八九
 ニシテ約四〇%ナリ
 而シテ轉進部隊ノ殆ント全員ハ當分加療休養ヲ要スルヲ以テ更ニホ
 キア迄十一日ヲ要シテ陸行以後舟艇便ニヨリウエワケ經由ホランジ
 アニ收容セリ
 舟艇行動中數次ニ亘ル敵魚雷艇及飛行機ノ攻撃ヲ受ケ約二十五名ノ
 戦死者ヲ出セリ

三、轉進部隊マダン集結後ノ狀況

司令部マダン到着後マダン警備部隊ヲ以テ擔任區タルマダン西方マラサ間ニ陸軍見張警戒隊ト協力シテ見張警戒員ヲ配シツツアリシ處、逐次ウエワク方面ヨリ八二警八五警ノバラオ經由補充者並ニ高砂義勇隊來着シ且ツ二月廿日當隊擔任區ヲラム河（含ム）以東迄ニ變更セラレタルヲ以テ陸軍部隊ノ近キ將來ノ兵力配備等ト呼應シ又マダン防衛上ノ必要ヨリ、海軍部隊ハマダン、ラム河口附近、見張警戒員及ブナブン、ボキア等ニ舟艇基地員ヲ配シ且ツ將來ノ戰鬥司令部トシテハンサニ七根戰鬥司令部ヲ準備スルト共ニ高砂部隊ニケ中隊約六〇〇名中約半數三〇〇名ハ陸軍部隊ト行動ヲ共ニシ特長タル「ジヤングル」艦ニ當ラシノ殘約三〇〇名ハ海軍部隊ト行動ヲ共ニシ補給設營作業ニ從事スルト共ニ緩急戰鬥ニ從事セシムル様任務ヲ與ヘタリ

二月下旬小官發病ノ爲九艦隊長官ノ命ニヨリ小官幕僚ノ一部ヲ從ヘ三月四日ウエワクニ到リ指示ニヨリ前線ニ於ケルキ七根部隊ノ作戰ハ二

海軍

特根司令官兼務セラレ、事トナリ、小官ハ爾後ウエワクニ七根司令部
 ヲ置キ作戰以外ノ任務ニ從事シラム河以東ノ兵力直接指揮ハ首席參岩
 城中佐指揮ヲ命ゼラレタリ
 爾來三月廿五日部隊編成變更セララル迄特ニ申告スベキ事項ナク三月
 廿六日退隊セリ
 其官在職中小官ノ不敏ニ依リ御期待ニ添フ事ヲ得ズ又多數ノ部下ヲ失
 ヒ、誠ニ恐縮ニ堪ヘズ謹シテ御詫申上グ

4090

第七根拠地隊
任務報告
(原形)

8050

本通 案

軍務秘

自昭和十八年十月二日

至昭和十九年三月廿五日

第七根據地隊任務報告

第七根據地隊司令官

海軍少將 工藤久八

海軍

（印）

仕務報吉報

一、本職着任 (一、二、三) 概況

(一) 上、カラエ、コリノ新進者ト決了レ其状況ハ

37% カラエ、新進時 二一五〇名 21%

戦北及行衛不明者 四五〇名 21%

後送者 一四五〇名 67%

現員 二五〇名 12%

一、状況ニテ其後、マラヤ、脚気、衛者以失調肺浸

潤等湧出シ到底、ツイエ、方面ノ進撃ハ不可

能ノ状況トナレリ

海軍

国史館

(二) 尙時、フインニエ、ハ、ニ、方、面、ノ、状、況

フインニエ、為、警、備、部、隊、約、四、五、〇、名、ハ、九、月、廿、日、命、言、リ、陸、戦、

團、ニ、テ、第、一、師、団、船、主、長、山、田、ヲ、將、指、揮、下、入、リ、十、月、上、旬、

第、二、師、団、到、着、後、ハ、兵、指、揮、下、入、リ、九、月、廿、日、致、シ、テ、

揚、陸、時、ヨリ、戦、斗、開、始、十、月、一、日、再、揚、陸、軍、部、隊、ヲ、サ、レ、

高、地、新、進、迄、日、地、ヲ、固、守、シ、所、謂、ガ、一、線、ヲ、守、受、テ、

十、月、廿、四、日、十、師、団、司、令、官、部、下、運、送、路、シ、ヨ、リ、結、果、總、予、備、

隊、ト、シ、テ、中、部、ヲ、サ、レ、高、地、ニ、移、シ、テ、部、隊、中、ニ、堪、エ、ル、者、

ヲ、第、一、線、ニ、配、シ、殘、餘、ヲ、後、方、ニ、留、置、ス、

十、月、廿、八、日、師、団、司、令、官、命、言、リ、カ、ノ、一、地、ニ、一、發、備、ヲ、担、當、中、

十、月、廿、四、日、根、司、令、官、直、率、一、復、敵、ノ、中、旬、ハ、亦、

到、着、セ、リ、

九、一、二、敵、上、陸、時、 四、七、〇、名

海 軍

國、會、誌

其
4

夜ノ心と後述ニ於ケル

(三) 南時司令部所在地ニホレテ於ケル状況

ノ上ニ交戦中ノ八五管ノ隊ノ遺棄物等ニヨリ

前進後退ノ神元兵等ノ神路等僅カニ潜水投便セル

以外ニ方無クシテ中ノ潜水投物等ヨリ兵等ニニ名補

足見エリシホレテ於ケル露路當生協ト人食糧(陸軍神路)等

極多ク不足シテ病者宛テ約四〇%ハ病者ニテ後送

患者ニ〇〇名ニ達シ到底兵員ノ先尖ハ則テ出テ来ル

状況トシ又、シホレテ逃散無ク留滞飛テ核等ノ極行ニ

ヨリ兵器ノ神元兵等ノ成功ニ於テ率多ク、糧食ニ僅カニ

四五、日分ヲ保指シ得ル心算ナリトシ、遂次兵等

(主トシテ見張及至通信) 糾着ニ伴ヒ、上第方ハ「ニヤルハ」

西方ハ「フニカイ」(當時短少、又知ニ以テ) 前進

六ヶ所ノ見張所ヲ配ル事トシ、遂次前進發セシメテ

一月四

至

138 三月廿日分保指海得テ

正ホレ在中 毎日午前六時半頃ヨリ午後四時半頃ニ到ル
 ハ敵機ノ爆銃數千連發シ一日平均約十機ノ機ヲ下ラズ到底日
 中ハゴッパカールノ露ヲ官地ヲ出テ得カニ状況。カールニ沿テ岸
 ハ屋柱共魚雷艇ノ横行。潜水艇艇子等ノ砲銃數千發
 次ニ直リ十月下旬ヨリハガリレ方面迄東ハ大發砲行セテ
 ド不成功ニ終ルニ到リ陸軍部隊ハ糧食糧食不
 可能ノ状態ニトナリ止テ力ヲ世御ニ遊次共力ヲ西方ニ移
 動タルノ止テヤ状況トナリ遊ニ十月下旬ヨリタリシ
 線直後退退再止ケテ由通報ニ接シ敵之遊次木蔭(水上)
 機動等ヨリ追及ニ来リ十月下旬ヨリ敵機軍
 他ノ砲聲ヲ聞クニ到リ七根司令都モ兵艦機地ニ止ムルヲ得
 其心ニ到ルヤクテ即想心シ、戰艦ヨリ司令所ヲ、キヤリ以地方山地ニ

夕リ

ナリニ露官地選定ニシテ得ニ得
 陸軍部隊ニ加テノ機 國
 八名ノ砲艦等止テ岸邊ニ

海軍

準備ヲ進メハリキ

此時迄由根據地隊トテハ、艦隊ヨリテハ、先任務ニ基テ

陸軍ト協力シテ、當時五ノ師ヨリニ聯隊増大佐等備担等ノ有

時ノ予備隊トシテ、協定シ

常時ハ潜水艇物産作業、予記配備ヨリ海上見張隊等

海陸輸送業務等ニ協力シテハリキ

海軍

海軍

○
状

二、敵グンビ地区上陸前後の状況

中

東部ニヨリヤ地区方面赤松(後赤南軍)カクサ(フイニエ) 西方面(瀧)附近ニ対峙中 下自、タリマン折車方ニ於

一月二日早朝敵輸送船(巡艇)ニ乗渡輸送三十隻(ハニ) 岬付逃揚陸後方遼新ニ去リヨ以テガ十八軍ハ、マダニレ

方面方約二天半ノ岳カヲ以テ急速此敵ヲ攻撃チ東方ニ陸海 軍部隊ハ此敵ヲ断碎突破、マダニ方面ニ集結各部隊作

戦行勅ヲ開始、敵ニマヲ兵 作戦経過ノ概要

(一) 作戦経過ノ概要

各隊ハ各記状況ニ鑑ミ速ク現配備(カ)以テハハ警ハ五隊

司令部ヲ撤シマダニレ方面ニ強行突破スル以外通策ナレト

判断シ麾下部隊。夫々秘勅準備ヲ有シ

二月刻ニ信電令ヲ下リヨリヨホニ付進ハ潜水艇神給

海軍

海軍

揚陸基地負平岡以下回。右ヲ残シ共地ノ海軍部隊主力ハ
 一月三日夕刻ニホモ岩屋ガリ附近ニ進出同地ノ南ノ國境
 昔ニシテ後ハ戦ヲ準備スルニ決意所要ノ手配ヲ完了セシメ處
 軍司令官一月三日早朝ニホモ到着直ニ戦斗ノ命令所ヲ開設
 セルヲ以テ陸軍部隊ト協議ノ結果司令部以外ノ海軍部隊ハ陸軍
 主力核動援護ヲ為スルヲ速ニガリ附近ニ進出同地ノ防備ヲ固
 ムルニシテ同地ニ於ケル潜水艇補給ノ協力ニシテ決シテホモ
 隊ノ主力ハ一月四日夕刻ガリニ向テ進出ス(高ニホモ残留潜水艇
 揚陸基地負四ノ右ニ一月八日伊州揚場橋後ニホモ撤退)
 一月四日初八軍ハホモ持久ノ任ヲ解カレタリテ在リテ戦方針ヲ執ル。
 決り

「高ニホモ」

一月九日一部隊(中井ヲ持テ隊ノ二大半)ヲ以テ「マカ」方面ヨリ東方
 ニ進出シ「グンビ」村附近ノ夜ヲ夜更スルト共ニガリシ以テ陸軍部

海軍

隊(五一師、二師)ハ中野集屯(指揮下)ニ(中野集屯(移)ス)
 ン方面ニ向テ密砕突破(中野)ニ決ス
 之カ房光ガリハ近ニ(潜水艇輸送)ニ依リ糧秣ノ集積(外)ニ
 備テ(艦)ヘ主力ニ逐次(車)方ヲ配属(テ)シ、(中野)ニ一方向ニ強行進出
 大高軍司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 中野(右)協力司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 警司令部(新)司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 二決(一月)八日(中野)軍司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 高八五通及七根司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 八五通(田島)大針(指揮)下(一月)八日(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 七根司令部(潜水艇)使(テ)リ、(中野)ニ先行(中野)ニ決ス
 大佐(佐佐木)ヲ指揮官トシ在(中野)ニ七根(佐佐木)力(司令部)使(テ)リ

海軍

即八二號司令部以下六三名(八二號三名八五號三名五特務隊入者六〇)
 ヲ以テ之ヲ編成部隊ヲ編成列各部隊ヲ魚雷艇基地
 及大岩基地ノ急遽設営並ニ前進部隊收容準備
 備着着年概二月末迄ニ完了スル
 一方海軍前進部隊ハ一月六日以降十八軍ト協定シテ
 九月一師團長ノ指揮下ニ入レ一月中旬ガリ附近ニ集結
 月廿四日同地ヲ撤退スルガニシテ同ノ前進ヲ開始スル
 其間八二號司令部ガリニ於テ陸軍ト協力執拗ヲ致シテ
 行方及魚雷艇ノ防室ヲ目シ口首ノ四一七ノ一機
 揚子江ニ成切シ糧食共此約五〇屯ノ揚子江前進部隊ニ
 補給スルヲ得タリ
 尚且輸送ニ送奉セル彈一八一機ハ十八日以降消息
 不明トシ揚子江ノ成切シ路ニ終ルリ

續前

海軍

以上諸準備ヲ整ヘテ車西一両片カヨリ軌道踏ヲ確保シツハ
 一ノカンレニ向テ進敷キシ海軍部隊ハ一部ハ二月十四日マレ
 着大為便ニヨリ翌十五日マレ知レニ到着收客スルヲ得タ
 リキ手敷次ニ直リ後着者收客ニ沿向二月末迄ニ定口
 収メ得タル人負ハ
 一ノホニ進敷時人負 手九千十本警車キ計 424
 一ノマニツ收客 人負 一八九十
 約四〇〇ナリ

而シ軌道部隊ノ殆ト全量ハ者ハ^{加藤}美良ノ要タルヲ以テ速ニホ
 迄十日ヲ要シテ陸行以後舟艇使ヨリト空ソシテ理由ホシ
 二收客セリ舟艇行動中敷次ニ直ル級魚雷艇及飛行機ノ改
 観キヲ受ケルニ至リテ^{三十五}者ハ^{成龍}者ヲ出セリ

海軍

備忘録

三、新進部隊メカン集結後ノ状況

司令部メカン到着後メカン警備部隊ヲ以テ担任セタル
 メカン西方メカン間ニ陸軍見張警備隊ト協同見張
 警備員ヲ配シツクリシ處、遂次ウエリクニ方面マリ、ハニ警
 八五警備ノハチヲ經由補充者並ニ高砂義勇隊未着
 シ且ツ二月廿日尙隊担任セテ、ラム河^{以東}ニ變更
 セラレタル陸軍部隊、進上陸未^ハ岳力配備等ト呼称シ
 又メカン防衛上必要アリ、海軍部隊ハメカン、ラム
 河口附近、見張・警備隊及メカン、ボキア等ニ舟艇
 基地ヲ設シ置キ、陸軍司令部トシテ、ハンサレニ
 七根戦中見張所ノ準備トシテ、高砂部隊ニ中隊^ハ隊
 約六〇〇名中約羊數三〇〇名ハ陸軍部隊トシテ、共ニ
 特長メカンメカン^ハ實ニ留メテ、残部三〇〇名ハ海軍部隊

海軍

司令部

ト海軍連隊行動ノ善ニ補助シ、後奉命ニ若海軍志願中ニ後奉
 セレ奉命ノリリノムニ標任務ヲ奉ヘリ
 丹月中旬、カシ軍艦中司令所ニハシリ、移駐スル事トシ
 二月下旬小官若ノ病、為九死隊長官ノ推命ニシテ小官幕僚
 一部ノ後、三月四日、白エリクニ到リ指示ニシテ、出陣ニ能ハル根
 部隊ノ作戦ハ二指根司令部兼務ニシテ、奉命トナリ、小官ハ
 其後、白エリクニ、(此相司令部兼務中) 作戦以外ノ任務ニ後奉
 シムレ、河以東ノ兵カニ直接指揮ハ首席為山崎中佐指
 揮ヲ命ジニナリ
 亦来三月廿五日部隊編成変更セルニ、道持ニ申告スル事奉命
 三月廿六日退隊ス
 其官在職中小官ノ不敏ニ多敷、部下ノ失ヒ、脚減ニ思心

伊勢海軍連隊ノ事ヲ得トス

海軍

七転八倒

本資料は「工藤文」の複製にほゞあり。当戦史資料「ニューギニア」

「前線報告」として一冊として見ると資料が重複箇所を除いて

複製したものとある。